

明朝9pt

論文

ゴシック11pt
論文、総説、報告のいずれか

およそ1cm

上辺マージン20mm
左マージン 20mm

河川技術論文集 和文原稿作成例

ゴシック20pt

Times Roman 12pt

PRINT SAMPLE OF JAPANESE MANUSCRIPT
FOR ADVANCES IN RIVER ENGINEERING, JSCE

およそ1.5cm

明朝12pt

Times Roman 10.5pt

論文集編集委員会¹・学会事務局²・River ENGINEERING³
Editorial COMMITTEE, Japan SOCIETY and River ENGINEERING

¹正会員 工博 土木大学教授 工学部水理工学科 (〒160-0000 東京都新宿区四谷一丁目無番地)

²正会員 工修 土木環境株式会社 水工開発部 (〒160-0000 東京都新宿区三矢六丁目13-5)

³Member of JSCE, Ph.D., JSCE Corp.

7行から10行

9pt

1cm

このファイルは河川技術論文集の原稿（和文）を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。それと同時に、原稿そのものの体裁（A4）をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。この要旨（アブストラクト）を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右1cmずつ狭くします。要旨（アブストラクト）のフォントは明朝体9ptを用いてください。要旨（アブストラクト）の長さは10行以内です。要旨（アブストラクト）の後に1行空けて、キーワードを5つ程度、Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい。

1cm

Key Words: times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

10pt, bold, italic

およそ1cm

10pt, italic, 最大2行

1. ページ設定とページ数

ゴシック, 11pt

マージンは左右が20mm, 上方が20mm, 下方が25mm程度とし, 2段組で1段25文字50行を標準とします。段幅は約82mmです。ページ総数は4または6ページです。

つのマージンをとります。

タイトルはA4用紙の上辺に約 3 cm のマージンを取り, センタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

和文タイトル: ゴチック体 20 pt フォント
英文タイトル: Times New Roman 12 pt フォント
(その下に約 1.5 cm のスペース)

和文著者名: 明朝体 12 pt フォント
英文著者名: Times New Roman 10.5 pt フォント
(その下に約 5 mm のスペース)

著者所属: 明朝体 9 pt フォント
(その下に約 1 cm のスペース)

要旨 (アブストラクト): 明朝体 9 pt フォント, 10行以内, 英文要旨 (アブストラクト) はつけない。
(その下に1行のスペース)

キーワード: Times, italic, 10pt, 数語, 2行以内

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ, 上記のように並べて下さい。'Key Words' という文字はボールドイタリック体にします。

2. タイトルページ

1行

1行

タイトルページは 2つの部分 で構成されます。

- (a) タイトル部分 (題目, 著者, 所属, アブストラクト, キーワード): 横1段組
- (b) 本文部分: 横2段組

このほかにヘッダが付きます。なおソフトウェアによっては, タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれることがあります。

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分の左右のマージンは, 本文の左右のマージンよりもそれぞれ 1 cm ずつ大きくとって下さい。したがって, A4用紙の幅に対して左右それぞれ 3 cm ず

本文明朝, 10pt
英数字Times

右マージン 20mm
下辺マージン 25mm

1段50行を標準とする

ください。

本文は、2段組で、左右のマージンは2 cm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。下辺のマージンは 24 mm です。

本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい。英数字はTimes New Romanを用いてください。

(3) ヘッダとフッタ

ゴシック, 10pt

タイトルページのヘッダに、投稿ジャンル（総説、論文、報告）の区別をゴシック体11ptで、論文集の巻数と年月（月は論文集が出来上がる6月として下さい）を明朝体9ptで入れます。ページ数については記入しないで下さい。事務局が最終原稿に入れます。

3. 一般ページ

ゴシック, 11pt

第2ページ以降の通常のページは上辺のマージンを 20 mm とします。それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

4. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときは

この例のようにインデントして折るかえす）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは3段階までとします。第1レベルの見出し（章）はゴチック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を1行以上、下を1行程度空けて下さい。

(2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し（節）もゴチック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

明朝, 9pt

実験番号	水深(m)	流量 (m ³ /s)
1	2.5	10.0
2	3.8	20.0
3	4.5	30.0

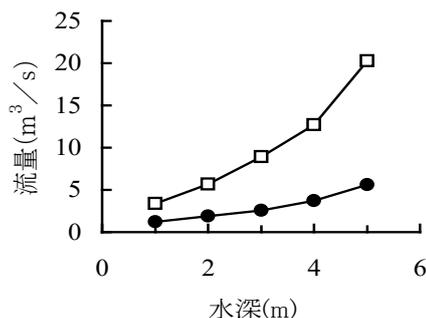


図-2 図のキャプションは図の下に置く。

↑ ↓ 1行ないし2行

5. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

6. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅

以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。英文キャプションの場合は、見出しをTable 1や Fig. 2として下さい。

7. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように^{1),2)}上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないで下さい。

8. 最終ページのレイアウト

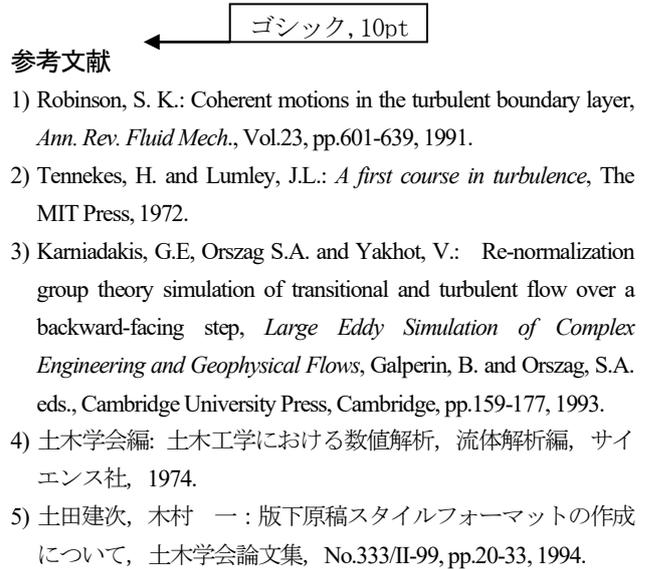
論文は6ページを越えてはなりません。また、1段目と2段目の末尾の長さがほぼ揃うように調整して下さい。

なお、原稿受理日は原稿の締め切り日とし、参考文献リストのあとに1行空けて右詰めで書いて下さい。9ptのゴシック体を使用して下さい。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置きます。



9pt

(2024. 4. 3受付)
ゴシック, 9pt